

希少疾病(難病)患者への 薬局薬剤師の関わり

未来の社会から望まれる 薬剤師の養成について

座長
仙台市薬剤師会副会長
高橋将喜
仙台市薬剤師会理事
矢尾板和弘

難病指定の疾病は1460ほどあるが、全難病患者数が少ないこともあり、その実態があまり世間では知られていない。薬剤師の多くも「難病患者さんや家族が薬剤師に求めている支援」や「薬剤師が難病患者さんや家族にできる支援」をほとんど分かっていないのが実情である。本分科会で難病のことを知り、薬局薬剤師は難病で苦しんでいる患者さんや家族へどのように接すれば良いのか。どのような支援ができるのか、などを考えるきっかけになれば良いと思う。また、本分科会に参加した先生方には、「難病と聞くと思わず引いてしまう」といった「難病に対する苦手意識」を克服し、ぜひ難病に取り組んでいただくことを期待している。

本分科会では4人の先生方に講演を依頼しているが、それぞれの講演概要を紹介する。

江崎治朗先生(厚生労働省健康局難病対策課)には、わが国の難病対策の歴史を振り返りつつ、指定難病患者への医療費助成制度や難病相談支援セン

ターの枠組みの解説、難病・小慢対策の見直しに関する意見書(2021年7月、難病と小児慢性特定疾病の合同委員会作成)のエッセンスや全ゲノム解析等実行計画の進捗など、国における最新の動きについて話していただく。

青木正志先生(東北大学大学院医学系研究科神経内科学)には、1999年から開始されている医師・患者・行政が一体となった宮城県神経難病医療ネットワーク事業(宮城方式)の解説を通して、難病患者の療養体制確保には地域の様々な職種の関与が必要であることと筋萎縮性側索硬化症(ALS)と縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチーの治療薬開発の進捗について話していただく。

白江浩先生(社会福祉法人ありのまま舎)には、患者さんやその家族が実際にどのようなことに困っているか、薬剤師にどのような支援を期待しているかについて話していただく。

矢尾板和弘先生(仙台市薬剤師会難病患者とその家族をサポートするWG)には、薬局薬剤師は難病患者さんとその家族にどのような支援ができるのか、また支援するためには薬剤師としてあるいは地域薬剤師会としてどのような準備が必要なのかについて話していただく。(高橋将喜)

座長
日本薬剤師会常務理事
亀井美和子
宮城県薬剤師会理事
我妻恭行

2019年12月公布の薬機法改正において、薬局の定義が「調剤の業務を行う場所」から「調剤の業務並びに薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」に変わり、服用期間中の継続的かつ的確な把握(フォローアップ)が義務化された。また、16年に導入された健康サポート薬局の届出とは別に、知事認定制度が新たに導入されて「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」が新たに誕生するなど、地域における薬局・薬剤師の活躍に大きな期待が寄せられている。

その一方で、21年6月に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」の取りまとめにおいては、薬剤師の業務・資質向上と共に薬剤師の養成等に関して、養成(入学定員、薬剤師確保)、薬学教育(カリキュラム、教員、卒業までの対応)、国家試験のそれぞれについて、改善を求める意見が述べられている。変化する社会に対

応するためには、卒後の自己研鑽と共に薬剤師養成を担う大学薬学教育の取り組みが重要であることは言うまでもない。

本分科会は、薬学教育の現状を踏まえた上での未来の薬剤師の養成について全体の動きを知り、議論を深めることを目的に企画した。基調講演では、日本薬剤師会常務理事の長津雅則氏に、日薬の政策提言等を踏まえて薬剤師教育の課題について講演いただく。続いて、厚生労働省、文部科学省、大学において薬学教育・薬剤師に関わる施策に直接関わっておられる立場の演者から講演いただく。

厚労省からは医薬・生活衛生局総務課の磯崎正季子氏、文科省からは高等教育局医学教育課の大久保正人氏、大学からは東北医科薬科大学の吉村祐一氏に登壇いただく。分科会を通じて、薬学教育・薬剤師資質向上に向けた課題、24年度からの導入に向けて改訂作業中である「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」の考え方などを共有し、これからの6年制薬学教育・薬剤師への理解とイメージを深めていただきたい。ぜひご参加いただきたい。(亀井美和子)

薬剤耐性(AMR)対策、 感染制御における薬剤師の役割

な取り組みとして推進することが求められている。

本分科会ではわが国のAMR対策アクションプランを踏まえ、取り組まれてきたこと、成し遂げられたこと、さらなる課題などについて、行政、団体、医療現場それぞれの立場から多角的な視点でお話しいただく。

基調講演として厚生労働省健康局結核感染症課の長江翔平室長補佐からは、アクションプランの概略および国際社会の中での日本の取り組みや今後の展開等についてご講演いただく。

日本薬剤師会の堀越博一理事からは、昨年日薬で実施した全国の薬局を対象とした抗菌薬使用動向調査およびAMR対策への取り組みについてご講演いただく。

グラムスキー薬局の瀧藤重道管理薬剤師からは、「グラム染色」を用いた抗菌薬適正使用への関与をはじめとした薬局での取り組みについてご講演いただく。

三重大学病院の新居晶恵看護部長からは、市民に対するAMR対策の普及・啓発活動についての取り組みをご講演いただく。

新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、感染症対策の重要性がさらにクローズアップされる中、各演者のご講演により、AMR対策の知見が深まり、薬剤師の役割についてさらにご理解いただきと共に、現場での実践につなげられる内容となっている。(橋場元)

座長
日本薬剤師会常務理事
橋場元
宮城県薬剤師会
石田真也

2015年のWHO総会において「薬剤耐性に対するグローバル・アクション・プラン」が採択され、G7エルマウ・サミットでは、G7諸国が協調して薬剤耐性菌対策に取り組む方針が盛り込まれた。

日本でも、16年に5年間の薬剤耐性

(AMR)対策アクションプランが公表され、薬剤耐性菌の増加を防ぐために、「普及啓発・教育」「動向調査・監視」「感染予防・管理」「抗微生物剤の適正使用」「研究開発・創薬」「国際協力」の六つの分野で目標と具体的な取り組みが示された。さらに、昨年のG20リヤド財務相・保健相合同会議の共同声明においても、新たな抗菌薬の開発および抗菌薬の慎重な管理について、ワンヘルス・アプローチに基づいて推進していくと宣言された。

このように、AMR対策は全世界的

ENIF シリーズの新しいインターネット発注システム



共創未来グループ

発注業務の効率化

薬剤師様のご意見をもとにした使いやすさ

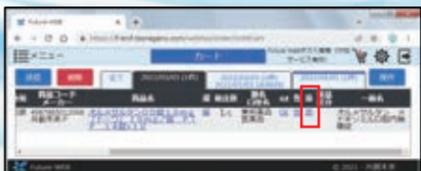
薬剤師様のご意見をもとにした操作性

ENIFのシンプルさを残しつつ、発注業務を行っている薬剤師様のご意見を最大限に反映しました。

- タブレットでも使用可能 (Google Chrome・Microsoft Edge)
- 調剤包装単位GS1データバーに対応 (オプションのバーコードスキャナが必要)



- 発注時点の異なる複数のカート
- PMDAの最新の添付文書にリンク



- シンプルな使いやすさ
- 場所を選ばず使用出来る
- PMDAの最新添付文書を表示



東邦薬品株式会社 CS 営業部

〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2
 Grantウキョウサウスタワー 12F
 TEL.03-6838-2823 (平日 9:00~18:00)